

<伊都キャンパス センターゾーン入口のアートワーク「築山」について>

◇アート名:「築山」

センター地区実施設計作成時に考案したもので、将来整備建物(総合研究博物館)用地の活用および残土の有効利用を兼ねて、見通しや美観に配慮するとともに、リズム感のある景観を創り出す目的で、アートワークの一環として整備

◎アートワーク「築山」の5つのコンセプト

- 象徴性**・・・「**情熱**」 大学の学問・活動がわき上がるようなエネルギーを表現
「**先進**」 研究や学問の頂点(サミット)を目指す高い目標を表現
- 美観性**・・・「**奥行**」 建物と築山が重なり合い、奥行きのある景観を演出
「**律動**」 様々な高さの築山(1.5M~3.0M)がリズム感のある景観を構成
- 機能性**・・・「**適度の遮蔽**」 学園通り線からの見通しを確保しながら適度に遮蔽
- 合理性**・・・「**将来整備用地の活用**」 憩いの空間を整備
- 経済性**・・・「**残土の有効利用**」 コスト縮減

◎整備後の効果

- 夜間時の照明点灯による防犯効果
- キャンパス内駐輪場の遮蔽
- 将来の整備用地を、憩いの空間として活用することによる違法駐輪の抑制
- 残土の有効利用による安価なアートワークの設置

<原初的な幾何形体のもつ象徴性>

